



“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No. 25 〈識別欠如〉

タイトル：マーキングを怠ることなかれ！

【事例】

作業員は、電源ケーブルを移設するために、翌日の作業のために仮設保護管を設置しました。翌日、ケーブルの移設作業のために、前日に設置したカラの仮設保護管の切断作業をしようとしたところ、近くにあったケーブルが通っている仮設保護管を切断してしまいました。

【ヒューマンファクターの視点から】

現場では、多くの作業が輻輳しています。今回のような事例では、作業員は翌日の作業なので、カラの仮設保護管の位置を覚えているので、識別するまでもないと思ったのかもしれません。

しかし、自分が設置した時はその位置でも、他の作業の干渉によって位置が変わったり、判っているつもりでも勘違いしてしまう可能性があります。

今回のような作業対象の取り違えによるエラーを防ぐためには、しっかりと識別することが有効な対策です。識別は、自分自身だけでなく、他の人が見てもわかるよう作業や現場の状態の共有という重要な意味を持ち、対象にマーキングする他、作業のやり方などによっては、進捗により対象を確認するチェックシートに記録するなどの方法があります。このような記録を取ることは、他の人の情報共有というの側面もあり、重要な意味を持ちます。

記録を残すメリットとしては、作業ミスなどがあった時に作業履歴を記録で追うことにより気づき発見することがあります。

発電所では、一つのミスが他の作業や機器に好ましくない影響を与えるリスクが存在しています。記録を取ることは、単純なミスを防ぐための基本であり、重要なポイントになります。

識別し記録を残し、確実な作業をしましょう。